

ここが見どころ
端正な洋館の奥に
本格茶室と和風庭園



旧奥野医院は、大正2年に皮膚科として開業。当初の建物は、火災で焼失したため、昭和初期に再建された。平成2年に閉院。古代ギリシャの神殿を思わせる正面中央の玄関ポーチは、優美さと荘厳さが漂う。一方、外壁には縦長窓が連なるなど、古典様式とモダニズムが融合。洋館の奥には数寄屋風の日本家屋が控え、和と洋が調和した造りになっている。



直方谷尾美術館

洋の病院と和の私邸、ふたつの表情

国の登録有形文化財
昭和16年頃(1941年頃)、
木造2階建、鉄板葺

〒直方市殿町10-35
☎0949-22-0038
🕒9:30~17:30(入館は17:00まで)
🗓月曜(祝日の場合は開館)
📍あり
🎫一般100円、高校・大学生50円
中学生以下無料、土曜は高校生無料

直方のレトロ建築

Q.なぜ病院の建物が多いの？

やはり石炭産業と関係がある。明治期に直方が筑豊炭田の中心都市として発達すると、それにふさわしく近代的な医療機関が作られるようになった。病院は西洋医学を取り入れた象徴として洋館で建設され、医療地区を形成していた。当時の直方の経済力と都市機能の充実ぶりが分かる。また、明治大正期の町家造りの建物が多いことも直方の街並みの特徴だ。



徳永邸と桜町小路

芸者衆の取次ぎを行っていた「券番」。徳永邸と桜町小路は、それに関連した建築物と考えられている。桜町小路の奥には古い堤防跡があり、人々が川を利用して往来していたことを伝えている。

〒直方市新町1-4-31
☎0949-25-2156(直方市商工観光課)



石原商店

大正15年(1926年)に建てられた木造瓦葺の商店。2階の大きな窓の下に庇を付けた小窓が並び、3層に区切られた外観。格調高い町家建築から、当時の商家の繁栄ぶりがうかがえる。国の登録有形文化財。

〒直方市殿町12-22
☎0949-22-0655



直方市石炭記念館

本館は、明治43年(1910年)に筑豊石炭鉱業組合の会議所として建築され、その後、炭鉱の救護練習施設となった時期もある。そのため本館後方には、救護練習用の坑道も現存する。市指定有形文化財。

〒直方市大字直方692-4
☎0949-25-2243



江浦医院

明治34年(1901年)に竣工した木造板張り2階建ての医院。洋風の外壁とは対照的に、玄関前には切妻風の屋根が張り出すなど和洋折衷の建築が興味深い。今も現役の医院として当時の姿を残す。

〒直方市殿町10-38
☎0949-22-0202

ここが見どころ

玄関上部のバルコニーと
北東角の塔屋
生け垣にクロスの意匠



向野堅一記念館

(旧讃井病院)
モダンな様式美に漂う風格

向野堅一
(直方市出身1868~1931)

中国近代に影響を与えた経済人で孫文の友人。飛勇の精神で修館から日清貿易研究所へ進学。日清戦争の特別任務ではただ一人生還し任務を果たした。その後、茂林洋行の社主となり、正隆銀行、満洲市場株式会社などを設立しながら満洲実業界を形成。芸術を愛し、恩義に厚い人物であった。記念館には、それらの足跡が展示されている。

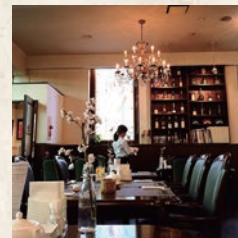
国の登録有形文化財
大正11年(1922年)木造3階建、
瓦葺、塔屋付、もと病院

〒直方市殿町12-19
☎0949-22-8008
🕒土曜10:00~16:00
📍あり
🎫大人200円、小・中・高校生、70歳以上無料

向野堅一記念館は、内科・胃腸科・歯科を備えた総合病院として開業した旧讃井病院(後に小児科医院)を、郷土出身の実業家・向野堅一の記念館として活用している。木造モルタル造りの和洋折衷セセッション風建築は、当時の宮大工集団が洋館設計士の指示の下で、最高の技術を発揮した成果である。病院にふさわしく生け垣には十字架の意匠が施されている。

ここが見どころ

「辰野式」の外壁は
れんが風のタイル張り
館内には大金庫室の扉



ギャラリーレストラン Buono

レトロ建築の中で、ステンドグラスや美術品を眺めながら、ゆっくりと食事を楽しめる。ケーキとコーヒーでカフェタイムも優雅に。

〒アートスペース谷尾内
☎0949-23-1999
🕒11:30~21:00
🗓月曜(祝日の場合は営業)
📍あり(契約)



アール・ヌーヴォー谷尾

(旧十七銀行直方支店)
大正ロマンに思いをはせて

旧十七銀行直方支店として大正時代に建設され、現在は直方市美術館別館(通称・アートスペース谷尾)としてガラス工芸品を主に展示する。重厚感のある外壁は、一見、れんがに見えるが、実はタイル張り。窓台に施された花崗岩がアクセントになっている。東京駅を設計した辰野吾吾氏に由来する、辰野式の赤茶色と白のコントラストが街並みに映え、今もなお地域のランドマークとして親しまれている。

国の登録有形文化財
大正2年頃(1913年頃)木造
及び煉瓦造り2階建、鉄板葺、
もと銀行建築

〒直方市古町10-20
☎0949-22-0038
🕒9:30~17:30
🗓月曜(祝日の場合は開館)
📍なし 無料

直方レトロ建築集

明治から昭和にかけて筑豊炭田の中心都市として栄えた直方。殿町地区には、当時の歴史を物語る象徴的な建物が、ほぼ一本の通り沿いに集中して残されている。



旧日若酒造

場所…直方市新町 3-5-50
長崎街道沿い尾崎口御門跡そば

化粧目地と煉瓦
旧日若酒造も煉瓦が美しい建造物だ。かなり大きな造り酒屋だったことが分かる。灰色の屋根瓦と白堀に煉瓦の赤色が映える。木の格子窓と腰壁の白色のタイル使いがすっきりと、造り酒屋らしくしている印象だ。煉瓦の積み方は入り口



なまご壁(旧篠原邸)



旧日若酒造の覆輪目地

日若酒造の覆輪目地

覆輪目地は日本独自の技法でかまぼこ型にふくらむ。由来は日本の蔵などに使われた、盛り上がった漆喰の目地を用いる「なまご壁」がヒントといわれる。手間がかかるため使われなくなった技法で、東京駅丸の内駅舎のものが有名。東京駅100周年復元事業の際、再現と練習に着工前3カ月ほどかかった。



小口積み。アーチも美しい。



一番上の煉瓦の装飾的な処理にも注目。

直方のまちに残る、煉瓦を探索。

煉瓦をもっと見たくなるね。



直方歳時館の手前。かなり厚みがあるため、防火壁だったのではないかといわれている。(防火壁)



煉瓦を探していたら、こんな場所に出た。(桜町小路)



ふと目に入った煉瓦堀。直方を歩くときは狭い露地も見逃さない。(旧篠原邸近く)



裏から見ると厚みの違いがよく分かる。下部がイギリス積み、上部が長手積み。(金光教直方教会)



やや荒く、暖かみのある表情の煉瓦。積み方は橋や酒造に比べすこし荒削り。

嘉麻川橋梁

場所…平成筑豊鉄道伊田線
南直方御殿口駅～あかざ駅間



触れる直方煉瓦散歩



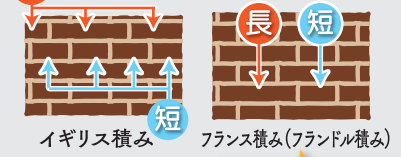
120年以上前の煉瓦建造物
遠くから見ても、橋脚の煉瓦がどっしりとした構えだ。河川敷に降りて近くで観察すること。まず大きさに驚く。間近で見ると整然と積まれた古い煉瓦の質感がいい。橋梁は上り線と下り線の2本。下流側の下り線は明治26年開通で、120年は経過しているのに未だに現役なのがすごい。上り線に「1907年イギリス製のプレートを発見。イギリス製だったとは驚きだ。煉瓦は積み方

嘉麻川橋梁

筑豊興業鉄道が石炭運搬のために建造。1893年(明治26年)に直方～金田間の遠賀川(旧嘉麻川)に架けられた。1899年(明治32年)金田～伊田が延伸開業。その後1911年(明治44年)直方～伊田が複線化して2本の橋となる。水圧低減のため、橋脚は上流下流に向かって舟形になっている。

があるところで、何積みか、観察。イギリス積み、フランス積みなどがあるというが、どれだろう。イギリス積みのように、よく見ると橋脚は船のように先端が細まっている形だ。何のためだろう。ここは積み方を変則的にしてこの形を作っているようだ。

煉瓦の積み方の種類



嘉麻川橋梁。基本イギリス積み。

使用例：福岡製糸場(群馬県富岡市) 旧九州鉄道本社(北九州市門司港)